



子ども大学学生新聞

第34号
子ども大学
かわごえ新聞部

「民主主義はみんなの手で」

池上彰先生 アメリカ大統領選挙も解説



一月二六日、尚美学園大学北オーデトリウムで池上彰先生の「民主主義と私たち」という授業があり、四年生四六人、五年生五九人、六年生四一人の計一四六人が出席しました。

池上先生は民主主義について話すにあたって、最近行われたアメリカ大統領選挙のことで学生に質問されました。「ドナルド・トランプさんが当選しましたが、トランプさんがいいと思う人?」。たくさんさんの学生から意見が出ました。「アメリカが本当に守れるか心配」「選挙のときと終ってから言っていることが違う」といった声の中で、「トランプが良い」

という人もいました。

アメリカでは実はヒラリーさんの方が良いと思う人が多く、二〇〇万票も差がつかれました。アメリカは五〇の州に分かれていて、その州ごとに大統領に投票する選挙人を選ぶのですが、その結果はトランプさんの方が勝っているのです。トランプさんが次期大統領になったと池上先生は話されました。

(石井結衣記者 霞ヶ関南小6年)

日本は民主主義の順位が低

一時間目は、まずアメリカでは大統領選挙のときに、なぜ州ごとに選挙人を決めるのかについてお話がありました。それは、昔、アメリカの人たちは、だれが大統領にふさわしいのかなどの判断ができなため、選挙人を選んでその人たちに選んでもらおう!ということになりました。

その制度が今も続いているのだそうです。投票用紙に候補者の名前を書くのは日本だけで、他の国は候補者の名前に印をつけて投票するそうです。日本人は読み書きができるから、投票用紙に名前を書く

のだそうです。

つぎに学生から質問を受けました。「大統領選挙が終わったのに、なぜデモをやっているのですか?」「選挙人に抗議しているのです。デモをやるのも民主主義の証です」「選挙人は自分に投票した人を裏切っても平気なんですか?」「そもそも、だれが裏切ったかは開票までわかりません」

池上先生は民主主義について特にくわしく話されました。「どんなものが民主主義か」については、「激しく議論するのも民主主義、多数決で決めるのも民主主義」とのことです。法律ができたら守る。だれでも自由にものを言う。そのどちらも民主主義で、言論の自由があるかどうかポイントだということです。「民主主義とはだれが決めているのか」については、「国民が決めている」のだそうです。

民主主義の世界ランキングというのがあって、日本の順位はかなり低いそうです。その理由は、女性があり社会進出をしておらず、女性の議員も少ないこと、そして投票率が低いことです。逆に、選挙の投票率が高く、「自分たちが国を動かせる!」と思っている人が多い国は、順位が高いそうです。

そして、順位を上げるためには「自分たちが民主主義の国にする」という考えを持つことが重要だと池上先生は話されました。(中島七虹記者 中央小6年)

☆池上先生インタビュー

Q 選挙をしない国はありますか。
A 仕組みはあってもやらない国があります。たとえばソマリアです。

Q 総理大臣と大統領は、どちらがうのですか。

A 同じ国家元首でも総理大臣は行政のトップで、インド、イスラエルなどがあります。大統領は国のトップで、アメリカのほかに、フランス、韓国などです。

(奈村晴冬記者 高階小5年)

☆記者の授業感想

◇秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年
私はいけがみ先生の話を聞いて、初めて知ったことがあります。それは民主主義です。民主主義じゃない国は、大統領などの批はんを言っつてはいけないということを初めて聞きました。そして、民主主義の国はニュースとかでも大統領などの批はんをしていることも知りませんでした。こういう話を聞いて、私は民主主義の国が自由でいいなと思いました。

◇奈村晴冬記者 高階小5年

ぼくは、民主主義が国名に入っているのは民主主義の国だと思っていたら、民主主義ではないことを知りました。

◇石井結衣記者 霞ヶ関南小6年

今回の授業を受けて、民主主義はとて大切で、民主主義があるから自分の考えや思いを言い合ひ、議論が出来るのであって、民主主義がもしなかったらと考えると、なんだかおそろしい気がします。民主主義のない国の人々は、どんな気持ちなのかと考えました。

また、アメリカ大統領選挙についても、どんなことがおきていたのかが、くわしく分かり、他の選挙の仕組みについても知りたいと思いました。
(写真はいずれも阿部フォト撮影)

環境保護の工夫を学ぶ

「エコプロダクツ2016」を見学



グサイトに到着しました。今年の出展は七〇五社・団体。会場スタッフの説明の

一二月八日〜一〇日までの三日間、東京都江東区有明にある「東京ビッグサイト」で「エコプロダクツ2016」が開催されました。「子ども大学かわごえ」は最終日の一〇日(土)に参加しました。参加者した学生は五三人四年生二二人、五年生一人、六年生一七人)、保護者三一人、きょうだい一四人、ジュニアスタッフ六人など計一〇九人。

朝八時、ウエスタ川越前から二台のバスで出発。途中で休憩もはさみ、一〇時ごろピッキングの説明のあと、班行動をしました。

組んでいるか、また、どのようにすれば、この先の環境を保護していけるかを、さまざまな形で子どもにわかりやすく説明していました。学生はもろろん、保護者の方々も学生に負けじとメモを取っていました。三日間の参加者は一六万七〇九三人だったそうです。

☆イオン

（長坂星名シニア記者 高階中3年）
スギかヒノキを使った間伐材のコースターづくりのコーナーを見学しました。森林の成長にともない、混み合った森林から曲がったり弱かったりしているスギやヒノキなどの針葉樹の枝を切り取って森林の中を明るく保ち、真っ直ぐ育てるために、間伐は必要な作業です。

間伐材の使い道で割りばしは有名ですが、今回のようにコースターやそれ以外にも色々な物に利用して間伐材を捨てることを減らそうと考えているそうです。私は間伐材を捨てずに、もっと色々な物に使ってほしいと思いました。

☆タカラトミー

（石井結衣記者 霞ヶ関南小6年）
私が取材したタカラトミーは、三つの工夫をしていました。一つ目はアニメです。アニメは目が見えない人でも手でさわって遊べるように動物のフィギアをつくり、色を一色にしてみました。二つ目はトミカです。手ころがしで発電できるトミカがありました。三つ目はリサイクルです。レールのうらにリサイクルのマークがかいてあったら、それはパンのふくろや、いろいろなものでつくっているのだそうです。

私はタカラトミーの話を聞き、おどろいたことがあります。トミカ一つで約五

〇〇個ものけんさがあることです。安全性をちゃんと守っているのだなと思えました。(秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年)

☆ユニチャーム



（長坂星名シニア記者 高階中3年）
トイレットペーパーのしんなど、いろいろな物でネコのトイレを作ります。ネコがおしっこをしたら部分だけを青色にかたまり、むだり、むだりに捨てる分もへり、エコ

ユにつながります。捨てたネコのおしっこのかたまりは殺菌して再利用しています。

立体マスクもあつたので取材しました。係りの人は「ふつうのマスクは化粧がとれて、口紅などがマスクについて、いやな女性が何人もいるから、立体マスクを開発しました」と言っていました。

☆日本経済新聞

「良い新聞をつくるにはどうしたらいいですか」「取材をする前に下調べを入念に行うことです。相手の話は一〇%ぐらいしか聞けないからです。帰りに私たちが取材した写真がのつた日本経済新聞の号外をいただきました。」
（土田莉子シニア記者 山田中1年）

☆食育

今年「食」についてのブースや体験が多かったと感じた。食育エリアでは、調理学校がお店を出し、安い価格で「地産地消」をテーマに様々な地域特産の食材を使った料理を販売していた。また、お雑煮の食べ比べや地域特産品の試食販売も行われていた。

☆パナソニック

（長坂星名シニア記者 高階中3年）
Q エコの活動は何をしていますか。
A タブレットで家電を動かすことをやっています。

Q それは節電になりますか。
A はい、なります。例えばエアコンを消し忘れて外出した時などにタブレットやスマホでエアコンを消すことができます。あと、部屋に電気がついているかどうかが確認することができます。

☆もりかみ協議会

（山口航シニア記者 富士見中2年）
「カートカン」という紙で出来た容器を使った飲料を配布していました。それがエコにどのように役立つっているのか。紙の容器を使うことで、植える→育てる→収穫する、というサイクルが活性化し、地球温暖化防止につながり、リサイクルも出来る場所が良いそうです。また手軽なサイズの飲料容器に使うことで、毎日でも使用でき、ムダがないところも良いそうです。

自分の感想紙製容器を使った飲料を飲むことが環境に良いことを知りました。これからは紙製容器を使った飲料を飲むようにしたいと思います。

（中島七虹記者 中央小6年）